



伊予三島ロータリークラブ

2024-2025
WEEKLY

No.16
令和6.10.18
第3426回



「マンゴーとレイシ」 坂田 瑞来



2024-2025年度国際ロータリー会長
Stephanie A. Urchick (ステファニー A.アーチック)

事務局 四国中央市金生町下分789-1 四国中央商工会議所内
http://www.iyomishima-rc.jp TEL(0896) 58-3530
E-mail:iyomis@iyomishima-rc.jp FAX(0896) 58-6294
例会 金曜日 12:10~13:10
■会長/佐々木弘実 ■幹事/井川 正 ■会報委員長/中野 航

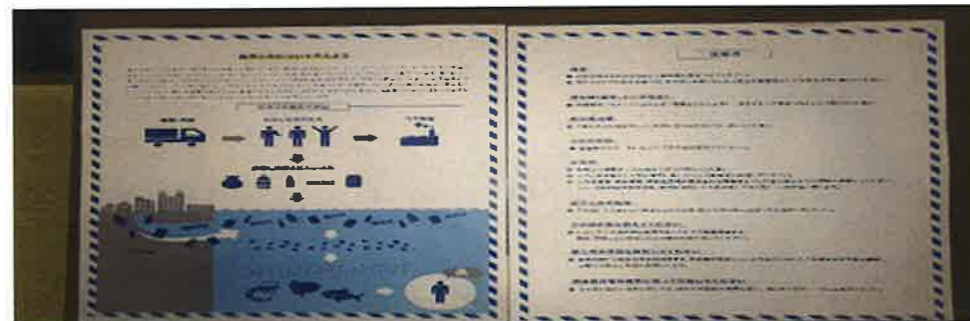
社会奉仕委員会

委員長 本 藤 賢 二

皆さん、こんにちは。社会奉仕委員会委員長の本藤賢二です。

社会奉仕委員会としましては、下期に海ごみゼロの活動を例年通り行うようにしています。

また、佐々木会長より川之江ロータリーさんと合同で行えればということで、合同例会のおり川之江ロータリーの石村会長へ下期に予定を合わせて行えるように日程調整をお願いしてきております。また、川之江ロータリーの社会奉仕委員会石川委員長さんに海ごみゼロの清掃活動とかを行っているのかと尋ねたところやっていないということなのでこの活動を合同で行うときに四国中央テレビさん活動の取材をしてもらえようようにしたいと考えています。また、高校生の参加者も年々増えてきておりますので下期に行うときには、100名以上で行えればと考えておりますのでご協力の程お願い致します。



また、来年の防災ボランティアの活動も社会奉仕委員会で行うようにしたいと思っておりますので、その際はご協力お願い致します。

陸軍潜水輸送艦隊

外 山 英 敏

愛媛県四国中央市の旧三島港に「潜水神社」(正式名「戦水神社」)という神社があります。

ここは「笑子神社」 漁業。「金毘羅社」 船主組合。三つの神社の合祀された社です。

この境内に㊦ Maru Yu 陸軍潜水輸送教育隊記念碑という石碑が建てられています。元部隊長陸軍大佐矢野光二書と石碑撰文の筆者名が記されています。『昭和18年10月30日 この地に創設。太平洋戦争の末期、制空権制海権を失った南方諸島の軍部隊に対し、兵器糧秣並びに患者等を輸送するために特別に陸軍が造った小型潜水艇乗組員を教育する為の部隊がこの地に在った。略称暁2940部隊 矢野部隊。昭和20年11月1日終戦復員により部隊解散。終戦26年後の今日、茲に戦友相集い比島方面にて戦死された故青木中佐以下300有余の英霊及び当部隊関係物故者に対し、この機会に衷心より哀悼の意を捧げる。昭和46年9月24日 陸軍潜水輸送教育隊㊦ 戦友会建之』という石碑が境内の西側に建立されています。㊦とは大東亜戦争・太平洋戦争末期、制海権、制空権を失い、陸軍が不慣れた海にフィリピン・レイテ島に残る陸軍の大部隊に物資を届けるために建造された陸軍潜航輸送艇の暗称です。結果を先にお話すると呉基地から出発した㊦三艇はフィリピンの本島ルソン島のマニラまで到着しました。レイテ島には米軍のダグラス・マッカーサー大將が「アイシャルリターン」の名文句を実現するため、一時避難先のオーストラリアからフィリピン奪還に情熱を燃やし再上陸しました。レイテ島は最大の激戦地となりました。米軍は125万人で日本軍は40万人、戦死者は34万人であり生き残った者も負傷や感染症にかかり無事なものはいなかったといえます。ミッドウェー海戦やガダルカナル島での敗北によって本土防衛の第一線であるフィリピンが孤立するようになりました。ここに残された守備隊のために昭和19年11月24日青木憲治少佐・部隊長の指揮によって植木清吉中尉・艇長の2号艇は40数名の要員と弾薬糧秣40トンを積載し、静かにレイテ島を目指してマニラを出航した。11月26日レイテ島西側のオルモック湾に到着。その日は米軍の索敵をかわすために艇を海底に沈座させた。明けて27日オルモック湾に接近中に米海軍第22戦隊麾下の第43駆潜隊4隻は2号艇に一斉射撃を浴びせた。2号艇は沈没し、船内に残っていた乗組員は全員戦死した。その後昭和20年1月2日、1号艇と3号艇は整備不十分のままマニラ港から脱出してルソン島北部へ向かった。1号艇は北サンフェルナンドのポロ岬港外で戦闘機12機と爆撃機の来襲を受けて海底に鎮座させたが首藤准尉以下12名は艇内に残されて殉死。3号艇は林昇中尉であったが、1月5日リンガエン湾沿岸のダモルテス沖で空襲を受けて沈没した。運よく3号艇は仮停泊中だったので乗員は全員無事で、1号艇の生存者芦原節夫大尉以下6名と合流して陸戦尖兵となってバギオに移動した。太平洋戦争が終わって今年で79年の歳月が過ぎました。戦争を体験した人は非常に少なくなりました。私は太平洋戦争終盤の昭和19年7月25日生まれであります。当然何の記憶もありません。昭和20年8月10日の御前会議で国体護持を条件にポツダム宣言受諾を決定しました。8月15日、天皇陛下による終戦の詔勅がラジオによって全国放送されました。当時日本は太平洋戦地で米軍に連敗して本土空襲が連日に行われて大本営も本土決戦・一億玉砕をスローガンとしました。玉砕とは全滅のことであり、すなわち日本民族は全滅してもいいということです。日本の大本営が本土決戦・一億玉砕を主張したため米軍の本土

空襲・原爆投下など日本の民間人を無差別に殺戮するという前代未聞の悲惨な状況になりました。昭和20年8月15日、天皇陛下の玉音放送の御蔭で日本人は滅亡をまぬかれたとっていいと思います。天皇の詔勅による終戦は最終的な重い決断です。このとき陸軍潜水艦はすべて山口県の三隈町（現・長門市）で暁部隊と共に駐屯していた。その船体の処分の為に、船舶司令官から「各地にある陸軍潜航輸送艇⑭を三島に集結すべし」との命令が出された。8月23日夕刻までに愛媛県宇摩郡三島町に24艇を集結させた。この時私の祖父・外山亀太郎（64歳）は私を乳母車に乗せて集結した陸軍潜航輸送艇の艦隊を見学に行ったらしい。そして8月24日早朝、三島港を出港し佐藤少佐の指揮で宇品に向かい同日夕刻宇品に集結し、船舶司令部に引き渡した。その後残りの35隻は米軍によって豊後水道で爆破されたと聞いている。日本陸軍が潜水艇を建造してフィリピンのレイテ島における米軍マッカーサー元帥との戦いの最激戦地に現地に取り残された日本軍のために大量の糧食・物資や弾薬を海に不慣れた陸軍のみで輸送したというのは信じられない戦略であった。しかも日本全国から集められた優秀な3,500名を超える潜航輸送艇部隊員の教育のために三島の富士紡績跡地に暁・アカツキ部隊として教育隊が結成されました。当時、陸軍潜水教育隊の教官であった元伊予三島ロータリークラブ会員の近藤栄司氏（少尉のち中尉。東京出身、故人）等多くの教官によって三か月で教育したという。海軍では5年から6年かかる乗員をたった3ヶ月で養成したというから驚きである。潜水艇は約40m、排水量約300トン、水上速度7ノット（時速12.964km）。水中約3ノット（時速5.556km）。という低速だ。製造所は四か所、朝鮮機械製作所、日本製鋼所、安藤鉄工所、日立製作所の民間四工場が奮戦宜しく約4ヶ月で1号艇を進水させた。潜水艇の訓練は三島港を母港として伊吹島と中世海賊の島で知られた大島を結ぶ三角形の海域でされました。昭和19年9月23日には17艇を保有するも使用に耐えうるのはわずか7号艇のみであった。太平洋戦争末期において陸軍が不慣れた潜水艇で兵站補給をして失敗した。海軍には輸送船護衛の考えはなかった。悲劇的な結果になりましたがその努力は称えられてしかるべしと思います。

（参考資料：中島篤巳著「陸軍潜水艦隊」土井全二郎著「決戦兵器陸軍潜水艦」他）

第3426回 例会記録 令和6年10月18日

開会 佐々木弘実 会長

出席報告
 出席会員（33名中） 30名
 出席免除会員 1名
 出席率 93.75%
 第3424回修正出席率 93.75%

会長の時間
 ○定例理事会報告
 ・令和6年度9月能登半島豪雨災害の支援について 承認
 ・11月度プログラムについて 承認
 11/1 ロータリー財団委員会
 11/8 ロータリー情報委員会
 11/15→9日（土）に変更
 親睦委員会『上期親睦家族会』
 11/22 クラブ奉仕委員会、定例理事会
 11/29 休会
 ・その他
 11月より、ネクタイ着用

幹事報告
 ・例会変更通知
 （新居浜南）
 ①10月22日（火）移動夜間例会に変更
 ②11月5日（火）、12日（火）、19日（火）
 夕刻例会

例会行事
 社会奉仕委員会
 本藤賢二 委員長
 ニコニコ紹介
 金崎敏明副会長～
 本日第1回目の新会員オリエンテーションを行
 ないます。対象者の方よろしくお願ひいたします！
 結婚記念祝～井原博史君、別府 偉君

11月8日プログラム予定
 ロータリー情報委員会